

Title	八十島祭考證(角正方著)
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1929
Jtitle	史学 Vol.8, No.1 (1929. 3) ,p.157- 157
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19290300-0158

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

弘法大師遠諱史

(水原堯榮著 高野山大師教本部發行)

來る昭和九年は、我が文化精神兩史上の一大恩人たる弘法大師の一千百年遠諱に相當するを以て、野山を中心として種々の記念事業が計畫せられつゝある。時に野山史の權威として學界周知の水原堯榮師は、早くも本書を上鉛して野山に於ける遠諱史の概要を説述し、以て來る遠諱の指針となし、且つは遠諱執行に當り、先づ論旨を東寺に下され、次いで同寺年預より野山に移達され、この遠諱の度毎に、高東不二一味乳水の宗風が顯彰された史實を闡明せられて居る。

因に著者は既に高野山金石圖説・密教版畫集成を始め幾多の名書を印行し學界に少くならず貢獻せられて居るが、更に最近には、高野山學大系の一として、高野山刻書志竝に同見存藏經目錄の二書を上梓せられると、寔に學界の爲め敬謝すべきである。

(昭和四年二月一日武田勝藏)

八十島祭考證 (角正方著)

往昔、大嘗祭の行はれた翌年、秋冬の交に八十島使とて皇室より浪懸の海濱に典侍藏人等を差遣して、祭典を行はれた。これは文德天皇嘉祥三年を初見とし、後堀河天皇天仁元年に及び、次の四條天皇の節に、專遠つて中止となつて以來、全く廢絶せられた。大阪府社豐國神社々司角氏は、昨秋の御大禮に際して、是れが考

證を上鉛弘く頒布せられた。同書の記す處に據ると、この祭は御即位大嘗祭を濟ませられた後に、皇室より特に典侍等を御使として遣はされ、又中宮・春宮の御使をも副へられて行はれたと考へられ、その祭典は江次第に見えるが如く、當日海に面して壇を設け、祭物を置き、所役の所行の後、女官衣笥を披いて御衣を振り奉り、次に宮主御麻を捧げて禊を行ひ、終つて祭物を海に投ずる等の行事がある。かく最初より禊祓を主旨として起りた祭儀であれば、その祭神は祓戸四柱の大神を主神としたものの如く推測せられる。又その祭場の地點に就て、古くは攝津國に向ふとか、難波に於て行ふとか記すのみで詳でないが、後朱雀天皇の節、祭場を熊河尻に設けた處、神司宮人等が先例は住吉代家濱に於て祭つたとて、俄にその馬を召して祭物を運ばせ同處に於て祭儀を行つたと見えるのに徴して、往昔は浪華熊河尻にて行はれ、この頃より住吉代家濱に代つたものと思はれる。又古く浪華の海には加島御幣島等多くの島々が點在したので、これ等を總稱して八十島と呼び、この海濱にて祭儀が行はれたので八十島祭と稱するに至つたものと推考せられる。

(昭和四年一月武田勝藏)